

1万円でSt.アンドリュースを回れる

エンジョイゴルフ&スポーツジャパン

室内でも本格的にゴルフが楽しめる——。そんなゴルフ愛好家に訴求するのがエンジョイゴルフ&スポーツジャパン（東京都、佐々木信也社長）である。同社は米国で開発されたシミュレーションシステム「フルスイングゴルフ」（フルスイングゴルフ社、本社・サンディエゴ）の国内総代理店の権利を2006年8月に取得。システム販売と並行して、同システムを備え飲食提供も可能な業態（インドアゴルフセンター）の店舗展開を図っている。今年7月までに港区に第1号店をオープンする予定で、今後3年間で直営店を3店舗開業し、事業協力会社を募って計13店舗まで拡大する計画だ。

一般的にゴルフコースは地理的に遠く移動だけでも時間がかかり、プレイは土日限定されがち。また、練習場も十分な距離レンジや規模を備えた場所は少ないため、同システムのニーズは高いと見ている。都心部でも気軽にゴルフを楽しめるように開発した施設が、今回のインドアゴルフである。ゴルフシミュレーターを複数台設置し、合わせて料理や酒類を提供する。昼間はゴルフレッスンをを行うなど、幅広い利用

方法がある。

「シミュレーター」は、150インチの大型スクリーンに、実存するゴルフコースの映像を映し、実際にボールを打つとリアルタイムに弾道が表示される。現在、米・セントアンドリュースやバブルビーチなど世界の53コース分のデータを保有している。打球がスクリーンに当たると、弾道がグラフィックで表示され、スライス、フック、打ち出し角度、初速、飛距離などが表示される。ラフに打ち込んだ場合は、ラフ用のマットから打つなど実践に近い感覚でプレーできるため、本格派に加えビギナーにうってつけという。ベータ版だがオンライン対戦も可能である。

出店に際しては、コンテンツの強みを活かして、通常、飲食店が敬遠しがちな地階や古い物件、やや条件の良くない立地を想定する。都心部にもリーシングが難しい家賃の安いスペースは多く、結果的に事業リスクを抑えられる。大きな商業エリアからタクシーで1メートル圏内に出店するなど、隠れ家的な立地を狙っている。

同社では7月までに開業予定の第1号店を旗艦店に据え、ややアッ

パー層を狙う。客単価は1万円程度。市場認知度が上がった段階で廉価版店舗の出店に繋げる。

同社が輸入するシミュレーターは、世界ですでに4000台の納入実績（1台1000万円）があり、マイケル・ジョーダンやドナルド・トランプも購入した。その性能の高さからPGAのティーチングセンターにも納入済みだ。またマンションデベ、ホテル、スポーツショップ、自動車ディーラーなど、幅広い業界から支持されている。

今後は国内総代理店として、全国の娯楽施設、ゴルフ練習場、シニア向け施設への導入を目指すほか、マンション向けにデベ対象の代理店制度を敷く計画もある。また、シミュレーターへの広告掲載によるメディア事業や現状1コース（フェニックスCC）のみという国内ゴルフコースの映像導入の拡大も検討している。



都心部でも実践しながらのゴルフが楽しめる